

# 第6学年 外国語活動学習指導案

2組 計30人 (男子17人, 女子13人)  
 指導者 T1 (HRT) 中川寛仁  
 T2 (AEA) 高吉智子

## 1 単元 外国の友達に「夢宣言」を届けよう (Hi, friends! 2 Lesson 8 「What do you want to be?」)

### 2 単元の見通し

- 憧れの職業について友達と交流したり, 外国の友達に紹介したりしようとする。
- 憧れの職業について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- 日本語と英語の共通点や, 世界には様々な夢をもつ子供がいることに気付く。

### 3 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
将来の夢を考え, 関心をもって友達にインタビューしたり, 相手・目的・場面等を意識して, 発表の仕方を工夫したりしようとしている。	職業を表す英単語や「I want to be a ~.」, 「What do you want to be?」を用いてインタビューをするとともに, これまでに学習した「I like ~.」などの表現も使って, その職業に就きたい理由を述べている。	日本語と英語の職業を表す単語の共通点や, 世界には様々な夢をもつ子供たちがいることに気付いている。

### 4 単元について

#### (1) 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは, 楽しみながら歌・ゲーム・チャンツ・インタビュー等の学習活動に取り組むことで, 好きなものやできること, 行きたい国などを伝える基本的な表現について学習し, それらを用いて話したり聞いたりしながら英語に慣れ親しんできた。このような学習を通して, 自分の考えや気持ちを相手に伝えることの楽しさを味わいながら, 日本語と英語のリズムやイントネーションの違いに気付いたり, 外国の文化を理解しようとしたりする子供が増えてきている。そして, 「何が分かったか」などの自己の学びを自覚し, それらを活用して, よりよく相手とコミュニケーションを図りたいという意欲を高めている。

そこで, 本単元では, 1学期に本学級で過ごしたアメリカ人の友達に, 英語で将来の夢を紹介(「夢宣言」発表会)する映像を送ることを「単元のゴール」とし, 子供たちが, 相手・目的・場面等を意識して, 進んで発表の仕方を工夫することができるようにしたい。そして, 世界には様々な夢をもつ子供たちがいることを紹介して, 外国の文化への理解を促すようにする。また, ゲームや友達へのインタビューを通して, 日本語と英語の職業を表す単語の共通点に気付いたり, 基本的な表現に慣れ親しんだりすることができるようにする。

本単元で培ったコミュニケーションへの関心・意欲・態度と発表の仕方は, 憧れの職業について調べて発表する学習「夢に向かって」(総合的な学習の時間)へとつながっていくとともに, 中学校における自己紹介等の英語学習への期待感を高めるものである。

#### (2) 子供の実態 (調査日 平成29年9月1日 調査人数 30人)

本単元の内容に関わる子供の実態については, 以下のとおりである。(数字は人数)

目指す子供の姿「外国語への興味・関心や課題意識」について	
① 外国語活動で「楽しそうだ」, 「よりよく伝えたい」と思うことがあるか。	よく思う (17) ・ 時々思う (9) ・ あまり思わない (4)
目指す子供の姿「言語や文化への理解と伝え合いの仕方」について	
② 「分かった」, 「伝えることができた」と思うことがあるか。	よく思う (14) ・ 時々思う (11) ・ あまり思わない (5)
③ 考えや気持ちをよりよく伝え合うために大切なことは何か。(自由記述)	話す速さや抑揚 (12) ・ 声の大きさ (9) ・ 視線 (6) ・ 動作 (6) 表情 (5) ・ 内容の分かりやすさ (4) ・ 相手の気持ちを考える (2)
目指す子供の姿「自己の学びを自覚して実生活に活用・実践」について	
④ 学習したことを, 他教科の学習や生活の中で生かすことがあるか。	よくある (12) ・ 時々ある (12) ・ あまりない (6)
「本単元の学習への意識」について	
⑤ 将来の夢を誰に伝えたいか。(複数回答)	友達 (19) ・ 家族 (12) ・ 他学年 (7)
⑥ 職業を表す英単語で, 知っているものは何か。(複数回答)	



- |               |                |                   |
|---------------|----------------|-------------------|
| ・ ティーチャー (30) | ・ ドクター (26)    | ・ サッカープレイヤー (24)  |
| ・ コック (23)    | ・ バスドライバー (17) | ・ キャビンアテンダント (16) |
| ・ アーティスト (16) | など             |                   |

## 5 指導に当たって

単元の導入では、まず、子供たちが、これまでの生活経験で知っている職業を表す英単語を出し合った後、チャンツやゲームでその英単語に慣れ親しむことで、本単元の学習活動への興味・関心を高めるようにしたい。次に、本校卒業生（現中学1年生）の将来の夢や日本の子供の夢ランキングを知ること、将来就いてみたい憧れの職業について、想像を膨らませながら考えるようにする。そして、1学期に本学級で過ごしたアメリカ人の友達が、将来の夢を英語で紹介し、子供たちに将来の夢を尋ねる映像を視聴することで、一人一人が「私たちも、外国の友達に将来の夢を紹介したい。」という課題意識をもち、「単元のゴール」設定へとつなげるようにする。

単元の展開では、まず、いろいろな職業を表す英単語を聞き、それらを仲間分けをすることで、英単語の「er」や「ist」の音が人を表すことに気付くことができるようにしたい。また、世界には様々な夢をもつ子供たちがいることを紹介することで、外国の文化理解を促すようにする。次に、Hi, friends! 2のモデルスキットや、本校職員が、小学校時代に戻ったつもりで将来の夢を英語で紹介した映像を視聴することで、「What do you want to be?」「I want to be a ～」などの基本的な表現の用い方を理解できるようにする。そして、ゲームや友達へのインタビューを通して、一人一人が友達とのやり取りを楽しみながら、これらの表現に慣れ親しむことができるようにする。

このように、職業を表す単語や基本的な表現に慣れ親しんだ上で、「夢宣言」発表会の準備と練習に取り組むようにしたい。その際、本校卒業生が「夢宣言」をしている映像を視聴することで、発表内容について具体的なイメージをもてるようにする。「夢宣言」の発表内容としては、まず、憧れの職業を述べ、次に、5年生から今までに学習した「I like ～」等の表現を用いて、その職業に就きたい理由を付け加えて言うようにする。また、発表内容に応じた衣装や小道具なども考えることで、アメリカ人の友達に、自分の将来の夢をより分かりやすく伝えることができるようにしたい。なお、小中連携の一環として、中学校の英語担当教員をゲストティーチャーとして招き、英語特有のリズムやイントネーションなどについて助言をもらうことで、苦手意識のある子供も、自信をもってアメリカ人の友達に送る映像となる「夢宣言」ミニ発表会に参加できるようにする。

単元の終末では、お世話になった中学校教員やALTに出席してもらいながら、「夢宣言」発表会を行う。そして、本単元の学習活動を振り返ることで、自己の学びを自覚し、総合的な学習の時間「夢に向かって」などの他教科の学習や実生活に意識をつなげるようにする。また、外国の友達には、発表会の様子を撮影した映像を送り、後日、視聴した感想をもらうことで、一人一人が学習への成就感を十分に味わうことができるようにしたい。

### (1) 課題解決へ向けた「学び合い」【研究内容1】

ア 学年や学習内容に応じた課題解決に向けた「学び合い」の設定

「夢宣言」発表会の前時である第5時では、将来の夢がアメリカ人の友達に伝わるか確かめるために、ALTを相手にミニ発表会を行う。「外国の友達によりよく伝わるためには、紹介の仕方をどのように工夫すればよいか。」を「学び合い」の目的とし、子供たちがグループによるアクティビティ①「ミニ発表会の練習」で、自分なりの工夫を考えた後、全体での1アップタイム「練習して気付いたことを交流」で、声・表情・視線・動作等のコミュニケーションのポイントを整理・共有できるようにする。そして、アクティビティ②「ミニ発表会」では、全体で共有したポイントを取り入れて、将来の夢をよりよく表現できるようにしたい。

イ 子供同士で考えを広げたり深めたりするための手立て

第5時のアクティビティ①では、前時の練習の様子を撮影したタブレットPCの動画を視聴することで、子供同士で発表の仕方について助言し合うようにする。また、1アップタイムにおいて、全体で共有したポイントを取り入れた子供のモデルスキットを見ることで、よりよい発表の仕方についての明確なイメージをもち、アクティビティ②に取り組めるようにしたい。

### (2) 学びの自覚を促し、次につなぐ学習指導の工夫【研究内容2】

ア 学びの自覚を促す手立て

第5時の「夢宣言」ミニ発表会では、全体で共有したコミュニケーションのポイントを取り入れ、よりよく表現している子供をT1とT2が価値付けたり、グループ同士で「Excellent」等のカードを使い、相互評価活動を行ったりする。また、本時の学習活動を振り返る際に、共有したポイントに沿って自己評価活動をすることで、学びの自覚を促すようにしたい。

イ 次につなぐ手立て

第5時の導入時に、前時の活動の様子を視聴することで、前回での自覚した学びを想起し、本時の学習活動に意識をつなげるようにする。また、本時の学習活動を振り返る際に、「本時で学んだことを、発表会本番でどのように生かしたいか。」などを観点に感想をまとめるようにする。そして、アメリカ人の友達が発表会を楽しみにしている様子を撮影した映像を視聴することで、発表会本番への意欲を更に高めるようにしたい。



6 指導計画 (全6時間)

単	主な学習活動【】慣れ親しむ表現	〔 〕子供の反応	教師の手立て「◆」重点評価項目
1	<p><b>職業の言い方を知り、学習計画を立てよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知っている職業を表す英単語を出し合う。</li> <li>チャンツやキーワードゲームをする。</li> <li>本校卒業生(現中学1年生)の将来の夢や日本の子供の夢ランキングを知る。</li> <li>外国の友達からの映像を視聴して、「単元のゴール」と学習計画を立てる。</li> </ul>	<p>私たちの先輩は、こんな夢をもっていたんだな。</p>	<p>○ 本校卒業生の将来の夢や日本の子供の夢ランキングを知ったり、外国の友達からの映像を視聴したりすることで、子供たちが必然性をもちながら「単元のゴール」を設定できるようにする。</p>
2	<p><b>外国の友達に「夢宣言」を届けよう。</b></p> <p>【「teacher」等、職業を表す英単語】</p> <p><b>職業名やインタビューの仕方を知ろう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カード取りゲームをする。</li> <li>いろいろな職業を表す英単語を聞いて、気付いたことを話し合う。</li> <li>Hi, friends! 2 Let's listen 「だれの夢か、考えよう」(p.40)をする。</li> <li>本校職員が、小学校時代に戻ったつもりで将来の夢を紹介した映像を視聴する。</li> </ul> <p>【職業を表す英単語や「I want to be a ～」と「What do you want to be?」の表現】</p>	<p>外国の友達に、将来の夢を尋ねられたよ。将来の夢を考えて、英語で紹介しよう。</p>	<p>◆ 将来就いてみたい職業を考え、それを外国の友達によりよく伝えたいという課題意識をもとうとしている。</p> <p>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】</p>
3	<p><b>将来の夢についてインタビューしよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Hi, friends! 2 Let's chant 「What do you want to be?」(p.40)をする。</li> <li>ステレオゲームをする。</li> <li>友達に就きたい職業を尋ねたり答えたりする。</li> <li>世界には様々な夢をもつ子供たちがいることを、クイズ形式で紹介する。</li> </ul>	<p>職業を表す単語に、「er」や「ist」の音が付くよ。人を表しているんじゃないかな。</p>	<p>○ 職業を表す英単語を音で仲間分けすることで、日本語と英語の共通点に気付くようにする。</p> <p>○ 先生の「夢宣言」を視聴することで、「単元のゴール」への意識を維持したり、インタビューするために必要な表現に気付いたりする。</p>
4	<p><b>「夢宣言」の準備と練習をしよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生の「夢宣言」の映像を視聴する。</li> <li>中学校の英語担当教員から直接助言をもらいながら「夢宣言」の準備と練習をする。</li> </ul> <p>【理由を述べるときは「I like ～」など、これまでに学習した表現を使用】</p>	<p>先生たちの夢を聞いたよ。友達の夢も、インタビューして聞いてみたい。</p>	<p>◆ 日本語と英語を比べて聞き、職業を表す単語の共通点に気付いている。</p> <p>【言語や文化への気付き】</p>
5	<p><b>外国の友達によりよく伝わる紹介の仕方</b></p> <p><b>で、「夢宣言」ミニ発表会をしよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の活動の映像やモデルスキットを見て、本時のめあてを確認する。</li> <li>グループで「夢宣言」の練習をする。</li> <li>練習して気付いたことを話し合い、「夢宣言」での大切なポイントをまとめる。</li> <li>グループに分かれ、登場したALTとAEAを相手に「夢宣言」ミニ発表会をする。</li> </ul>	<p>自分の将来の夢を伝えたよ。聞いた友達の夢も素敵だな。</p>	<p>○ 友達にインタビューし、楽しく尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>○ インタビューのやり取りのような出題方法で、世界の子供たちの夢を知る。</p> <p>◆ 職業を表す英単語や、「I want to be a ～」、「What do you want to be?」などの表現を使ってインタビューしている。</p> <p>【コミュニケーションへの慣れ親しみ】</p>
6	<p><b>外国の友達に「夢宣言」を届けよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お世話になった中学校教員やALTを招いて「夢宣言」発表会を行い、その様子を撮影したものを外国の友達に送る。</li> <li>単元全体の学習を振り返る。</li> </ul>	<p>世界には私と同じように、様々な夢をもつ子供たちがいるよ。</p>	<p>○ 卒業生の現在の「夢宣言」を視聴したり、中学校英語担当教員から、英語のリズム等について助言をもらったりすることで、「夢宣言」の発表内容に具体的なイメージをもち、自信をもって紹介できるようにする。</p>
5 (本時)	<p><b>外国の友達によりよく伝わる紹介の仕方</b></p> <p><b>で、「夢宣言」ミニ発表会をしよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の活動の映像やモデルスキットを見て、本時のめあてを確認する。</li> <li>グループで「夢宣言」の練習をする。</li> <li>練習して気付いたことを話し合い、「夢宣言」での大切なポイントをまとめる。</li> <li>グループに分かれ、登場したALTとAEAを相手に「夢宣言」ミニ発表会をする。</li> </ul>	<p>外国の友達に「夢宣言」の内容が伝わるかな。</p>	<p>○ 声や表情などのコミュニケーションのポイントを、全体で整理・共有する。</p> <p>○ ゲストティーチャーとしてALTが登場し、ミニ発表会に参加することで、外国の友達をより意識した伝え方を考えて工夫できるようにする。</p> <p>◆ 相手・目的・場面等を意識して、発表の仕方を工夫しようとしている。</p> <p>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】</p>
6	<p><b>外国の友達に「夢宣言」を届けよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お世話になった中学校教員やALTを招いて「夢宣言」発表会を行い、その様子を撮影したものを外国の友達に送る。</li> <li>単元全体の学習を振り返る。</li> </ul>	<p>友達と学び合ったポイントに気を付けてミニ発表会をしよう。</p>	<p>○ 外国の友達には、「夢宣言」発表会の映像を視聴した感想を送ってもらうようにする。</p> <p>◆ 本単元で学習した表現や、コミュニケーションのポイントを基に、「夢宣言」をしている。</p> <p>【コミュニケーションへの慣れ親しみ】</p>



7 本 時 (5 / 6)

(1) 目 標

職業を表す英単語と「I want to be a ~.」の表現や、これまでに学習した「I like ~.」などの表現を用いながら、「単元のゴール」(相手・目的・場面等)を意識して「夢宣言」の発表の仕方を工夫している。

(2) 展 開  教師の言葉掛け  子供の反応  重点評価項目 ☆ICT活用上の留意点

観(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導	
		T 1 (HRT) の役割	T 2 (AEA) の役割
意 欲 を も つ (7)	<p>1 前時の活動の様子を視聴して、前時と本時とのつながりを確認する。 前の時間は、「夢宣言」の発表内容を考えて練習したね。自分の夢が相手に伝わるかな。</p> <p>2 モデルスキットを見て、本時のめあてと学習の進め方を確認する。 高吉先生の「夢宣言」は、声の大きさや表情などがよかったな。私も、そうになりたいな。</p>	<p>☆ 「夢宣言」を練習している様子などを撮影した動画を視聴することで、子供たちが、「単元のゴール」に意識を向け、本時への意欲を高めるようにする。</p> <p>○ T2とのモデルスキットを見た感想を交流して、それらの感想を本時のめあてにつなげるようにする。</p>	<p>○ T1とモデルスキットを行い、小学校時代に戻ったつもりで、将来の夢を紹介する。</p>
楽 し む (32)	<p>外国の友達によりよく伝わる紹介の仕方、「夢宣言」ミニ発表会をしよう。</p> <p>3 ビンゴゲームとチャンツをする。 職業を表す単語も、「I want to be a ~」も、楽しみながら話すことができたよ。</p> <p>4 各グループに分かれ、アクティビティ①「ミニ発表会の練習」をする。 (グループでの「学び合い」) 大きな声で発表したけれど、強弱を意識して話すと、ALTの先生により伝わりそうだ。</p> <p>5 1アップタイム「練習して気付いたことの交流」をする。 (全体での「学び合い」) みんなで交流したことをまとめると、「夢宣言」をするときの大切なポイントは何かな。</p> <p>相手に伝わるように、「声、表情、視線、動作を工夫すること」や「絵・写真や実物を使うこと」が大切なポイントだ。</p>	<p>HRT:What do you want to be? AEA:I want to be a cabin attendant. I like English. I can go to many countries. I want to be a cabin attendant. HRT:Nice dream.</p> <p>☆ タブレットPCを使ってゲームをすることで、職業を表す単語に慣れ親しみ、自信をもって練習に取り組めるようにする。</p> <p>☆ 前時の練習の様子を撮影したタブレットPCの動画を視聴しつつ、子供同士で発表の仕方について助言し合うようにする。</p> <p>○ 練習して気付いたことを全体で話し合い、発表のポイントをまとめるようにする。その際、子供によるモデルスキットを見ることで、発表のポイントを明確に理解できるようにする。</p> <p>○ ALTも相手にすることで、外国の友達を想定して紹介できるようにする。また、グループ同士で「Excellent」等のカードを使い、相互評価活動を行う。</p> <p>◆ 相手・目的・場面等を意識して発表の仕方を工夫している。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】</p>	<p>○ アクセントや抑揚に気を付けて「I want to be a ~」などのチャンツを行う。</p> <p>○ 多くの子供たちに声を掛け、リズムやイントネーションなどについて助言する。</p>
振 り 返 る (6)	<p>6 グループに分かれ、登場したALTとAEAを相手にアクティビティ②「『夢宣言』ミニ発表会」をする。 (グループ同士での「学び合い」)</p> <p>7 本時の学習について振り返り、次時への見通しをもつ。 (1) 本時で学んだポイントに沿って振り返りをする。 学んだポイントを取り入れて発表したら、ALTの先生に将来の夢が伝わったよ。</p> <p>(2) 外国の友達からの動画を視聴して、次時への意欲を高める。 外国の友達も「夢宣言」を楽しみにしているよ。学んだことを生かして本番も頑張ろう。</p>	<p>☆ タブレットPCに蓄積している「振り返りカード」に、本時で学んだ発表のポイントに沿って振り返りを行うようにする。</p> <p>○ 成長したことや次時への課題などについても考え、それを全体の場で交流するようにする。</p> <p>☆ 動画を視聴して、外国の友達が「夢宣言」を楽しみにしていることを知り、次時への意欲を高めるようにする。</p>	<p>○ 「夢宣言」をした子供たちに声を掛け、簡単な英語で、紹介の仕方について称賛したり助言したりする。</p> <p>○ 本時での子供たちの頑張りやよかったところなどを、簡単な英語で称賛する。</p> <p>○ 次時の「夢宣言」発表会では、ALTや中学校教員も出席することを告げる。</p>



第6学年「外国の友達に『夢宣言』を届けよう」本時（5／6）における「学び合い」想定シート

「学び合い」の目的

外国の友達に、憧れの職業と、その職業に就きたい理由が伝わるために必要な発表のポイントを見付け、それらを取り入れて「夢宣言」の発表をよりよくするため。

「学び合い」の方法

形態	グループ → 全体 → グループ	思考を可視化する手立て	タブレットPCと子供によるモデルスキット
----	------------------	-------------	----------------------

「学び合い」で期待される子供の姿

形成	外国の友達に将来の夢をよりよく伝えるために、どのようなことに気を付けたらよいかを考え、互いの発表の仕方について助言し合っている。
整理	自分や友達が考えた将来の夢が伝わるためのポイントを、声・表情・視線・動作等の観点に整理し、よりよい発表の仕方について広げたり深めたりした考えを共有している。
再構築	外国の友達に将来の夢をよりよく伝えるために、整理したポイントを取り入れ、発表の仕方を工夫しながら表現している。

「学び合い」の手順

グループ	アクティビティ①「ミニ発表会の練習」では、各グループに分かれ、互いの練習の様子をタブレットPCで撮影し、それを視聴しながら助言し合う。
全体	1アップタイム「練習して気付いたことを交流」では、アクティビティ①で気付いたことを全体の場で交流し、声・表情・視線・動作等の観点に整理しながら、発表のポイントをまとめる。そして、これらのポイントを取り入れていた子供のモデルスキットを見て、よりよい発表の仕方について明確なイメージをもつ。
グループ	アクティビティ②『「夢宣言」ミニ発表会』では、登場したALTやAEAを相手に、全体で整理・共有したポイントを取り入れながら、各グループで将来の夢を発表する。また、発表を聞いたグループは、共有したポイントに沿って、「Excellent」等のカードを渡しながらか称賛の言葉を掛ける。

「学び合い」の想定

働かせたい見方・考え方

【1アップタイム「練習して気付いたことを交流」（整理）】



グループで練習をして、相手に将来の夢がよりよく伝わるために、どのようなことに気を付けて発表したらよいと思ったかな。



私は、相手に伝わるように、話す速さや声の強弱が大切だと思ったよ。また、話す内容によって笑顔にしたり、自信がありそうな表情にしたりするとよいかもかもしれない。



ぼくは、聞いている人の目を見て発表したいと思った。また、就きたい職業に合うように動作や道具を工夫すると、相手に将来の夢がより伝わりそう。



みんなで交流したことをまとめると、「夢宣言」をするときの大切なポイントは何かな。



相手に伝わるように、話す内容に合わせて「声、表情、視線、動作を工夫すること」や「絵・写真や実物を使うこと」が大切なポイントだね。



先程の練習では、これらのポイントを意識して、上手に発表していた友達がいたよ。その友達にモデルスキットをしてみらうので、よいところを見つけてみよう。

アクティビティ①「ミニ発表会の練習」で、友達と助言し合った内容に着目して、相手によりよく伝わる紹介の仕方について考えている。

自分と友達の考えの共通点や相違点に着目して、それらを整理しながら「夢宣言」をするときの大切なポイントについて考えている。